

修正箇所該当頁	誤	正
p6 表 11 L lymph. invasion	リンパ節内浸潤	リンパ管内浸潤
p9 表 13 対症治療 (Ⅲ期治療)	QOLの維持のみが目的	QOLの向上のみが目的
p16 右段 上から1~2行目	慢性リンパ急性白血病	慢性リンパ球性白血病
p19 右段 下から7行目	骨髄吸引で20%以上	骨髄吸引で30%以上
p23 右段 下から12行目 下から6行目	有子分裂像 対軸骨格	有糸分裂像 体軸骨格
p33 右段 上から8行目	ビタミンK依存因子 (Ⅶ、Ⅳ、Ⅹ、Ⅱ)	ビタミンK依存因子 (Ⅶ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅱ)
p42 (10) 腫瘍と直接関連のある血液化学検査項目の11行目	メソトレキセートがある。	メソトレキセート、シタラビンがある。
p42 (10) 腫瘍と直接関連のある血液化学検査項目の13行目	シタラビン	削除
p55 右段 上から2行目	ビフォスフォネート	ビスフォスフォネート
p64 右段 下から12行目	IgM~	IgG~
p68 左段 上から9行目~	芽球数<30%で特定の形態異常を伴うならばMDSとする。	芽球数<30%で特定の形態異常を伴うならばMDS-Erとする。
p82 右段 上から5行目	抗ガンマグロブリン血症	高ガンマグロブリン血症
p118 右段 上から1~2行目	CT値{(組織のX線吸収係数-水のX線吸収係数)/水のX線吸収係数×1,000}	CT値{(組織のX線吸収係数-水のX線吸収係数)×1,000/水のX線吸収係数}
p120 表 2 X線検査	・ガスが多く存在する肺、ミネラルの多い骨や石灰化組織では詳細な観察が可能	左の文を欠点から利点に移動
p124 左段 上から4行目 左段 上から9行目	無構造的気管支パターン 呼吸時撮影	無構造的間質パターン 呼吸時撮影
p127 左段 上から2行目	膜性部	中心部
p128 右段 上から1行目	腹腔横膈静脈	前腹静脈と後横膈膜静脈の本幹
p132 右段 下から8行目	T1強調像で高信号	T1強調像で低信号
p134 図 7 真ん中のシェーマ中央	脾	脾
p134 図 7 右のシェーマ	内腸骨動脈	外腸骨動脈
	外腸骨動脈	内腸骨動脈
	MI: 正中腸骨(外腸骨)リンパ節	MI: 内側腸骨リンパ節
	Hy: 下腹(内腸骨)リンパ節	II: 内腸骨リンパ節 (シェーマもHyからIIに修正)
p141 表 1	被胞化	被包化
p142 右段	②高増殖シグナルに対する不応性	②抗増殖シグナルに対する不応性
p147 図 8 写真の説明文	a: 自壊した乳腺腫瘍	a: 初診時の肺転移所見
	b: 初診時の肺転移所見	b: 自壊した乳腺腫瘍
p152 右段 上から8行目	標的酵素の量の増減や減少	標的酵素の量の増加や減少
p153 (8)インフォームド・コンセントの10~13行目	しかし、現在のところ動物の種々の腫瘍に対する化学療法について推奨されるプロトコールは存在するものの、確定的なプロトコールは存在していない。	削除
p154 左段 下から14行目	バルケード	バルケード
p156 右段 上から4行目	COX-2阻害剤	COX阻害剤
p156 (2) 栄養管理 下から8行目	悪液質	悪液質
p157 左段 上から17行目~	安静時エネルギー要求量 (BER)	基礎エネルギー必要量 (BER)
p158 右段 下から9行目	ボルフィン系	ボルフィリン系
p159 左段 下から1行目	低用量の反復性スケジュールで与えると、	低用量で与えると、
p160 表 2 非標的病変の2行目	IR/SD	PR/SD
p160 表 3 RECISTガイドライン進行病変	30%以上の増大	20%以上の増大
p161 1) 高カルシウム血症の下から7行目	ハイドロアパタイト	ハイドロキシアパタイト
p162 左段 3) 敗血症	セフェム系抗生物質: 22mgq 8h IV	セフェム系抗生物質: 22mg/kg q8h IV
	エンロフロキサシン: 5~10mg IV ゆっくり投与	エンロフロキサシン: 5~10mg/kg IV ゆっくり投与
p162 表 4	クロラムブシル	クロラムブシル
p162 右段 下から2行目	低酸血症	低酸素症
p164 右段 上から13行目	~乳酸をコリ回路によって	~乳酸はコリ回路によって
p164 右段 下から8行目	シクロヘプタジン	シプロヘプタジン
p164 右段 下から4行目	シクロヘプタジン(猫): 1~4mg/kg/cat PO	シプロヘプタジン(猫): 1~4mg/cat PO
p174 左段 下から12行目	ランゲルハンス型組織球腫	削除

修正箇所該当頁	誤	正
p178 (5)卵巣摘出術の予防的、治療的な意義の上から4行目～	初回発情前の実施で0.5%	初回発情前の実施で0.05%
p178 右段 下から5行目	腋下動静脈	腋窩動静脈
p179 左段 上から8、10行目	腋下動静脈	腋窩動静脈
p180 左段 下から2行目～	海面質部骨梁	海綿質部骨梁
p181 右段 上から7行目	動脈へ血液供給を受ける。	動脈から血液供給を受ける。
p190 左段 (4)術式の5行目	胸開したら	開胸したら
p194 右段 上から2行目	総腕頭動脈	腕頭動脈
p196 右段 上から3行目	反回咽頭神経	反回喉頭神経
p203 右段 下から9行目～	乳頭腫、メラノーマ、腺癌、基底細胞癌、～	乳頭腫、メラノーマ、基底細胞癌、～
p212 右段 上から1行目	liner - quadratic relation	liner - quadratic model
p219 左段 上から4行目、16行目	耐用線量	耐容線量
p221 図9の右	確定的影響 (がん、白血病など) *がん死亡率の自然発生率は、年間10死亡のうち約3% (確率約30%)	確率的影響 (がん、白血病など) *がん死亡率の自然発生率は、年間10死亡のうち約3 (確率約30%)
p237 左段 上から6行目	高容量	高用量
p237 右段 下から3、9、12行目	Gompertizian の成長曲線	Gompertzian の成長曲線
p237 右段 下から12行目	Golidie-Coldman の仮説	Goldie-Coldman の仮説
p238 左段 下から15行目	(図7)	(図6)
p238 左段 下から11行目	増数	増加
p238 右段 下から4行目	(図8)	(図7)
p241 右段 上から3行目	ダクチノマイシン	アクチノマイシン
p241 右段 上から4～5行目、P242表6	メトトレキサート	メトトレキサート
p246 右段 上から4行目	、静脈投与	削除
p246 右段 下から11行目～	リンパ網内系腫瘍	リンパ細網系腫瘍
p247 (7) ストレプトゾトシンの〈作用〉	糖尿病誘発性効果を抑制する	糖尿病誘発性効果を示す
p248 左段 上から6行目	細胞周期特性	細胞周期特異性
p250 右段 上から1行目	ステルスリボゾーム	ステルスリボソーム
p251 左段 ミトキサントロンの〈その他〉	また、血管外漏出後の周囲組織壊死は認められない。	また、人医薬能書には記載があるものの、血管外漏出後の周囲組織壊死は実際には認められていない。
p252 左段 上から12行目	細胞周期特性	細胞周期特異性
p252 メトトレキサートの〈用量〉および表9のメトトレキサート投与量・投与方法	犬・猫：0.6～0.8mg/m ² 、静脈内投与ないし経口投与	一例として、犬：0.5mg/kg、静脈内投与、3週ごと、または、2.5mg/m ² 、経口投与、隔日、猫：0.8mg/kg、静脈内投与、2～3週ごと、がある。
p253 (2) シトシンアラビノシドの〈代謝経路〉	中枢神経系には唯一限られた方法でしか入ることができない。	削除
p255 ビンクリスチンの〈その他〉	血清ビリルビン値が2mg/dL以上	血清ビリルビン値が1.5～2.0mg/dL以上
p258 右段 下から3行目	トラセニブ	トセラニブ
p259 右段 上から6行目	ドシソルビシン	ドキソルビシン
p261 左段 上から8行目	デモゾロマイド	テモゾロマイド
p262 右段 1) 骨髄抑制の5行目	骨髄瘦	骨髄癆
p263 左段 上から12～13行目	人組み換え顆粒球コロニー刺激因子 hrG-CSF 製剤	人組み換え顆粒球コロニー刺激因子 rhG-CSF 製剤
p266 6) 腎毒性の14行目～	なお、5-FU は猫に致死的な腎毒性をもたらすため使用すべきではない。	削除
p266 表19	ミトキサントロン	ミトキサントロン*表外に「*能書記載あり。獣医学領域ではみられないとされている。」と追加
p268 12) 急性腫瘍溶解症候群の上から9行目	腫瘍浸潤	腫瘍浸潤
p268 2) の上から4行目	(25%以上の進行)	(RECIST では20%以上)
p271 右段 下から6行目	COX-1 抑制剤	COX-2 抑制剤
p272 右段 上から5行目	競合拮抗	競合拮抗
p272 右段 下から14行目	低容量	低用量

【補足】p250 と p265 表 17 のデクスラゾキサンの投与量・投与方法について記載が異なっていますが、plumb's veterinary drug handbook に掲載されている 2 通りの投与量・投与方法の 1 つめの記載が p250、2 つめの記載が p265 の内容です。